

平成28年8月20日

公益財団法人 愛世会
愛歯技工専門学校
学校関係者評価委員会

第三回学校関係者評価委員会議事録

平成28年8月20日（土）、平成27年度自己点検・自己評価報告を基に、下記の通り「第三回学校関係者評価委員会」を開催いたしました。

記

1, 開催日時 平成28年8月20日（土）10時～12時

2, 開催場所 愛歯技工専門学校 会議室

3, 参加者 学校関係者評価委員

【学校関係者】

江上 勝二 (卒業生代表、
有限会社ユアーズデンタルラボラトリー代表)
上田 ゆみ (保護者代表、77期在籍学生の母親)
吉田 茂夫 (業界関係者、港歯科技工士会代表、
有限会社ラボスクエア 代表)
榊原 功二 (業界関係者、有限会社榊原デンタルラボ 代表)

【学校側】

岡野 京二 (愛歯技工専門学校長、理事)
田中 誠 (愛歯技工専門学校教務主任、委員長)
金井 正行 (愛歯技工専門学校教員、副委員長)
谷口 正幸 (愛歯技工専門学校事務長)

(他記録係1名)

4, 会議の概要

- (1) 開会 委員長より挨拶、開催目的、趣旨の説明
- (2) 学校側参加者の紹介
- (3) 学校関係者評価委員の各委員のご紹介
- (4) 学校長より挨拶
- (5) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目1～3）
・第一回学校関係者評価委員会の委員等の意見の活用に関する報告
- (6) 質疑応答・審議、小休憩
- (7) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目4～6）
- (8) 質疑応答・審議、小休憩
- (9) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目7～9）
- (10) 質疑応答・審議、小休憩
- (11) 平成28年度学校自己点検・自己評価報告（点検項目10～11）
- (12) 質疑応答・審議
- (13) 平成29年度の取り組み、重点目標・計画について学校側より説明
- (14) (点検項目1～11について) 質疑応答・意見交換、
今後の取り組みについて審議
- (15) 委員長より挨拶、第四回委員会開催について 閉会

※なお、第三回学校関係者評価委員会における、学校関係者評価委員による評価結果、意見等詳細は別紙報告書に記す。

5, 会議で挙げた委員等からの主な意見とそれに対する学校側の説明・回答

※委員等からの主な意見は一部抜粋

(学生への指導・教育体制について)

- ・(愛歯の) 学生を見ていると、学習への自発的な取り組みを促していると感じる。このような授業は良いと思う。
- ・技術力の低迷と底上げは何とかしなければならない問題。

→ (学校側の回答)

歯型彫刻、理工学の授業をもっと充実させなければならない。

学校では指導すべきところはきちんと指導するが、今の学生に合わせ「怒らない」指導とフォローアップを心がけている（近年の学生は精神面の弱さが目立つため）。

個人との関係、つながりをしっかり持ち、そこからどのように指導するのかを心がけている。

（個人面談の実施について）

・（学校側の説明）成績不良者や欠席回数の多い学生は、教員と対面することを避けてしまうことが多い。そのため前年度同様、特に教員側から個人面談等で接していかないといけない。授業でも積極的に声をかけるなど心がけている。また、できる子は何も（面談等の機会が）なくても、向こうから（教員に）話かけてくることが多いため、その都度誠実に接することを心がけている。

→（学校側の回答）

このような指導ができるのは少人数制ならではの思う。

（企業と学校の連携、カリキュラム等について）

- ・ 在学中にわからなかったことが、卒業して働いてみて「こういうことか！」とわかるようになった。（同窓生意見）
- ・ 学校は卒前教育、職場（企業）は卒業後教育の場と考えている。新卒者を迎えるときは（企業で）「教育」する意識をもっている。

→（学校側の回答）

本校では「歯科技工実習」など、臨床現場を視野に入れた実践的な実習機会を取り入れている。歯科技工士には、臨床現場で直面する様々な症例、ケースに対応し得る多様な「技術」が求められるため、とにかく「やってみせる」授業を実践している。

本校卒業後の歯科技工士が、企業等の臨床現場でうけた教育や得た経験によって新たな「気づき」を得て、一層のスキル向上、今後の活躍の一助となれば幸いである。

また、新卒生とは同じ目線に立った指導を心掛けている（企業意見）。

（修業年限について）

- ・ （修業年限）二年は短い。教育レベル、学生指導にも限界があると思う。しかし、現状、歯科技工士不足が業界全体では問題となっており、また時勢をふまえると、より多くの即戦力を育成するためには今のかたち（修業年限・体制）は必要だと思う。

→（学校側の回答）

学校側としても、できるかぎりの指導に努めているが、限られた修業年限の中、

臨床現場の第一線で活躍するようなレベルまで全学生を指導することは現状難しい。時勢をふまえ、企業等と連携しつつ、より質の高い人材育成・業界への貢献のため今後も尽力していく。

(学生募集活動について)

- ・ 定年退職者が料理教室に通っているという話を聞く。歯科技工でもそのように幅広い世代に門戸を広げ学生を募集しないと今後は少子化もあり集まらないと思う。
- ・ 歯科技工士を「知らない」者に、どのようにアピールしていくかが大事だと思う。
- ・ 広く一般に向けた職業周知が必要。
- ・ 出張授業は学校の授業の特色を伝えられるので良いと思う。
- ・ ホームページでの情報提供。
- ・ 歯科医院に専門学校のパンフレット等を置くなど、技工士という職業を知ってもらうことができればいいと思う。
- ・ 体験入学のプログラムリニューアルの検討。

→ (学校側の回答)

「歯科技工士のなり手不足」「学生募集」はここ数年、学校全体で重大な課題であり、広報事業など、課題解決に向けて早急に取り組む必要がある。特に歯科技工士を知らない者に対していかに周知に努めるのか、また歯科技工士について理解した者が進路検討先の1つとして本校を選択するには、いかに広報すべきか、検討が必要である。

「出張授業」は前年度実施高校の参加者(生徒)の感想でも「知らなかった職業について理解できた」などと好評であったため、今後も力を入れていきたい。「ホームページ」については前回の会議でも話題にあがり、昨年リニューアル公開したため、今後も更新活動に力を入れて取り組んでいきたい。

※なお、今回の会議で出た委員等からの意見については、次回開催の第四回学校関係者評価委員会で意見の活用状況を報告する予定である。

・ **第四回学校関係者評価委員会の開催について**
平成29年8月度を予定している。

以上